

科目名		設計製図 A			
担当教員	星野 麻子		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。</li> <li>2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。</li> <li>3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。</li> <li>4. 最終的には、木造住宅の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説行う</li> </ol>				
学習目標 (到達目標)	<p>建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、実習を通じて習得する 木造住宅の各種図面の作図手順と、木造軸組工法のしくみを理解する また、建築士2級の技術試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①初学者の建築講座 建築製図(市ヶ谷出版) ・製図用具一式				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	製図道具 ①製図道具の確認、記名 ②各種製図用具の名称、役割、使い方	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、課題等で使う道具の役割を説明。 ①～②の項目を理解し適正に使用することができる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
2	基本練習-1 ①線の描きかた等の基本 ・線の太さの使い分け ※ケント紙A2で課題提出	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
3	基本練習-2 ①平面図各部 ・通り芯 ・壁 ・開口部 ・機器等の描きかた	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
4	平面図 ①木造平面図の描きかた ②線の使い分け ※ケント紙A2で課題提出	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
5	断面図 ①木造断面図の描きかた ②建物の断面構成	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
6	立面図 ①木造立面図の描きかた ②屋根の描きかた ③開口部の描きかた ※ケント紙A2で課題提出	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～③の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
必須提出課題の点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題提出80% 授業態度20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。 建築士試験に対応できる知識と技術を身につけるため、基本を固め、演習を繰り返すことでつてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。			
実務経験教員の経歴 ハウスメーカーにて設計業務経験11年					

科目名		設計製図 A			
担当教員	星野 麻子		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。</li> <li>2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。</li> <li>3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。</li> <li>4. 最終的には、木造住宅の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説行う</li> <li>5. 建築設計、エスキース力の習得、製図力の強化</li> </ol>				
学習目標 (到達目標)	<p>建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、実習を通じて習得する 木造住宅の各種図面の作図手順と、木造軸組工法のしくみを理解する また、建築士2級の技術試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①初学者の建築講座 建築製図(市ヶ谷出版) ・製図用具一式				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	専用住宅(木造2階建て) ①前期住宅計画演習課題をベースにエスキースの訂正・完成 ②前期の製図技術に従った平面図、断面図、立面図 *A2ケント紙にレイアウトして提出	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
2	透視図法 ①図法の種類や特徴 ②参考資料図をもとに2点の透視図と作図方法	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
3	木造専用住宅短計図のトレース ①参考資料図の木造の短計図 ②木構造の詳細 *A2ケント紙にて提出	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
必須提出課題の点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題提出80% 授業態度20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。 建築士試験に対応できる知識と技術を身につけましょう。 建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ることで、他の科目と関連性をもって学ぶ必要がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う			
実務経験教員の経歴 ハウスメーカーにて設計業務経験11年					

科目名		設計製図 B			
担当教員	本間 裕		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。</li> <li>2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。</li> <li>3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。</li> <li>4. 最終的には、RC造の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説行う</li> <li>5. 建築設計、エスキース力の習得、製図力の強化</li> </ol>				
学習目標 (到達目標)	<p>建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、実習を通じて習得する 鉄筋コンクリート構造、RC造構造、設計条件を理解する また、建築士2級の技術試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①初学者の建築講座 建築製図(市ヶ谷出版)				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	鉄筋コンクリート構造の製図 ①鉄筋コンクリート構造の各種構造についての説明 ②配置図・1階平面図の作図 2階平面図の作図 ③断面図の作図 ④立面図の作図 ⑤詳細図の作図	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～⑤の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
2	専用住宅(RC造)の設計 『ルーファガーデンのある親子二世帯住宅』 ※鉄筋コンクリート造壁式構造 ①エスキースの作成 ②配置図・1階平面図の作成 2階及平面図の作成 ③断面図の作成 ④立面図の作成 ・課題提出	<p>方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～⑥の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習</p>			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
課題の期限内提出を基本とし、平常点を含め総合的に判断し評価します。 成績の評価90% 平常点10% 課題の評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。 建築士試験に対応できる知識と技術を身につけましょう。 またプロセスをチェックすることで習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、清楚の低い課題については、十分な解説を行う			
実務経験教員の経歴 ハウスメーカーにて設計業務経験11年					